

◎令和4年度事業運営の特徴と課題

1. 各介護保険事業の状況

(1) 利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
特別養護老人ホーム %	93.33	93.94	94.94	93.24	92.06	95.41	96.44	90.75	92.97	94.31	95.35	95.77	94.04
ショートステイ %	109.7	125.8	139.0	170.0	163.9	127.0	110.7	88.67	112.3	102.9	122.5	121.6	124.49
特養/SS合計 %	94.74	96.69	98.74	99.86	98.25	98.13	97.66	90.57	94.63	95.05	97.69	98.00	96.67
デイサービス (一般) 平均人数/日	34.3	35	36.5	38.1	37.6	37.8	38.2	35.7	35	35.1	33.8	34.7	36
デイサービス (認知) 平均人数/日	7.2	7.4	7.3	7.8	7.8	7.1	7.9	9.4	9.5	10.4	10.5	10.2	8.5
デイサービス (合計) 平均人数/日	41.5	42.4	43.8	45.9	45.4	44.9	46.1	45.1	44.5	45.5	44.3	44.9	44.5
居宅 ケアプラン 件	90	129	126	124	122	116	120	123	124	122	122	126	1,444
包括 予防プラン 件	454	372	374	379	372	379	370	364	366	364	352	367	4,513

(2) 特別養護老人ホーム/介護老人福祉施設の利用状況 (定員 106 名)

年間利用床数は36,383床(99.7床/1日)でした。入退所の状況は、新規入所者が32人(昨年比80%)、退所者も29人(昨年比72.5%)でした。令和5年3月31日時点の平均年齢は、男性が84.2歳(昨年比+0.7歳)、女性が90.1歳(昨年比+1.9歳)で、最高年齢は102歳(女性)です。また、平均要介護度は3.65で、要介護3以上の入所者が全体の88.7%(昨年比-0.3%)でした。「看取り介護」は19人(昨年比65.5%)実施しました。

新型コロナウイルス感染症についても令和4年11月に初めてご利用者で感染者が発生し、終息までに約2カ月を要しました。

(3) ショートステイ/短期入所生活介護の利用状況 (定員 10 名)

年間利用人数は4,540人、年間稼働率は124.49%でした。昨年より1,823人、稼働率で50.11%減少しています。令和4年度は特養において初めてご利用者が新型コロナウイルス感染症に感染したこともあり、終息するまでショートステイの受け入れを停止した影響で、利用人数、稼働率ともに大幅な減少となりました。受け入れ再開後については、困難事例も含めて積極的に受け入れ、利用ニーズに最大限対応しました。

(4) デイサービス/通所介護事業の利用状況 (定員一般50名、認知22名)

年間利用延べ人数は14,321人(12.582人)。1日平均利用人数は一般デイ36人(34.1人)、認知症デイ8.5人(6.6人)、合計44.5人(40.7)でした。※カッコ内は昨年度の人数。

コロナ感染症を発症した職員・利用者が複数名いましたが、営業停止にはせず、感染の拡大に注意しながら営業を続けることが出来ました。ボランティアによる活動と交流が出来ず、趣味活動は例年通りの活動を行う事が出来ませんでした。季節感を味わう行事等は感染予防に配慮しながら、職員のみで規模を縮小して開催することが出来ました。

(5) 居宅介護支援事業

ケアマネジャー4名（主任ケアマネジャー1名）の体制で運営しています。4月より特定事業所加算ⅢからⅡに加算区分を上げて算定しています。ケアプラン数は介護予防を含めて1カ月平均で120件お受けすることが出来ました。

特定事業所加算の算定に伴い、営業時間外も24時間連絡可能な体制としています。また、週1回程度事業所内で会議を実施することで地域ケアマネジメントの質の向上に努めています。研修については、外部研修への参加に加え、他法人との合同事例検討会も開催することで制度理解や専門性を高めるよう努めています。また、高齢者あんしんセンターとの連携によって困難事例の対応や相談支援業務も行っていきます。

2. 北区委託事業

(1) 高齢者あんしんセンター事業（地域包括支援センター）

高齢者あんしんセンター(地域包括支援センター)事業を北区より平成20年4月に受託してから15年が経過しました。圏域の高齢者人口は約6,428人、高齢化率は34.9%、後期高齢化率は22.8%、昨年に比べやや低下しているものの区内でも非常に高い数字となっています。引き続き自治会、シニアクラブ、民生委員の方々との連携強化に努めております。そのほか、地域へのアウトリーチの一環として、赤羽台UR団地出張相談窓口の継続、自治会が行う見守り活動の相談やサポート、ふれあい交流サロン（園芸サロン）の開催を通して地域住民との顔の見える関係づくりに努めました。さらに認知症施策の推進として近隣の小・中学校における認知症サポーター養成講座の開催や、福祉学習の実施時の協力など関係機関との連携により地域で高齢者の方が安心して生活できるような環境作りにも取り組んでいます。また、地域公益活動として、桐ヶ丘商店街の中に「桐ヶ丘サロンあかしや」を、他の社会福祉法人と共同運営しています。

(2) 高齢者住宅事業

現在高齢者住宅2棟、計50戸に対して、各棟1人の生活援助員（LSA）を配置しています。高齢者住宅2棟の生活援助員による活動状況は、訪問336件、警報機対応26件、家事援助0件、不在対応2件、相談5件、その他174件でした。また、その他は、介護援助要素の強い方の呼び出しや対応、住宅供給公社、北区等との調整事項です。なお、生活援助員はコミュニティー支援、ケース会議にも参加しています。

(3) 北区認知症高齢者一時保護事業

北区内での迷子老人の保護施設として事業参画して11年目になりました。令和3年度は、2件で13日間の保護実績となりました。